

# 花 信

*Kashin : The Shinshu University Library Bulletin*

第12号 2002. 9

## 目 次

知的ライフラインとしての図書館 ..... 1	お知らせ ..... 6
信州大学で利用できる電子ジャーナルと 学術文献検索システム ..... 2	（図書館における利用者ガイダンス） ..... 6
電子ジャーナル・データベースの無料 トライアルについて ..... 4	（本学関係者著作寄贈図書一覧） ..... 8
利用者の声から ..... 5	分館だより（教育学部分館） ..... 9
	業務日誌 ..... 10
	人事異動 ..... 11
	信州大学学術情報・図書館委員会名簿 ..... 12

## 知的ライフラインとしての図書館

附属図書館長 村 瀬 澄 夫

大学の独立法人化を間近にして、大学の教育・研究機能の向上と個性化が強く求められている。この中で図書館は、知的基盤として重要な責務を負っている。大学における教育の充実や研究の進展に、図書館機能は必要不可欠な存在である。しかしながら、本学においては、図書館が大学にとって必須の組織であると意識されることは少ない、それぞれの部局があたかも独立した単科大学のごとく機能している現状では、図書館とは、部局にある分館あるいは図書室であって、大学附属の図書館であるとは認知されていない。信州大学は、University というより Colleges（複数形）のようである。このような運営方法は、しかし、大学がひとつの法人として再生を求められている現在、岐路に立っている。部局ごとの知的基盤整備は、その予算面や人事面で限界に来ている。知的基盤整備は部局ごとに行うのではなく、大学として戦略的に実行すべき課題となっている。魅力ある教育・研究基盤が整っていることは、優秀な学生や教官を引きつけるための必須の要素である。3年前、信州大学附属図書館が目指す姿をネットワーク型図書館と定義した（附属図書館報「花信」No.7, 2000. 3）。分館を専門館として位置付けながらも相互に有機的に結びつけることで、全体として大学の図書館機能の向上を目指すものである。電子図書館化はそのひとつの回答である。それと同時に、それ以上に実際の図書の整備が危急の課題である。電子資料は迅速な研究の進行に不可欠であるが、一方で、じっくり思考するためには、手にとって扱える図書資料も必要である。教育効果の点でも図書の不足は看過できない問題である。多地点キャンパス間の図書の配送には、物流システムの構築に課題が残るものの、所蔵数の確保は緊急の課題である。現状の信州大学図書館にはあまりにも本がない。

図書館が大学の存亡にかかわる知的ライフラインであることを大学として明確に定義し、財務基盤を確立することが求められる。現状では、各部局に配分された予算から分館へ必要経費が配分されており、予算制度上は分館は部局の附属施設となっている。信州大学附属図書館「の」分館ではないのである。このことは、機動的戦略的な図書館の運営に支障をもたらしている。分館の運営に部局の意向が強く反映され

るべきであるのは、サービス拠点として当然のことであるが、中央経費の項目に分館を含む図書館全体の運営経費を定めて、財務的に図書館をひとつの部局として再定義する必要がある。また、その予算を効果的に執行するためには、組織としての裏付けが必要である。職員録に見るごとく、附属図書館の職員として記載されているのは、いわゆる旭キャンパスにある中央館の職員だけであり、財務上だけでなく組織上も信州大学図書館とは何かが明確でない。分館長の先生方、また、図書館の運営委員会である学術情報・図書委員会の委員の先生方を兼任として副館長などのように位置づけ、執行組織を確立する必要がある。審議機関である委員会とは別に日常業務をこなす執行機関が必要である。もちろん各分館の事務系職員も組織上は附属図書館に一元化する必要があると思われる。

これまでの学内向け学術情報提供サービスを中心とした学習図書館、研究図書館、保存図書館機能に加えて、今日、学外・地域への情報発信機能が図書館に求められている。これは、大学にある知識や知恵をどのように分かりやすく、社会に還元するかということである。学内にある知的資源(リソース)を調査し、学外ニーズに応えるべく書籍や電子教材として企画し、その製作を支援する。完成後はそれも図書館の学術情報コンテンツのひとつとして、運用・管理を行う。余裕があれば、学外からの要望に応じた講演会の企画なども、知的リソースの社会還元として取り組んでも良いだろう。これらは、各部局でも今後積極的に実施されると思われるが、その際には、学外から見た一元的窓口として、図書館がインデックス機能を持ち、情報アクセスのためのサポートを行うべきと考える。この実現のため、図書館に教官を配置し、学術リソース研究企画部門をおくことが望まれる。

大学にかぎらず図書館を取り巻く状況は厳しく、図書館の使命は終わったとの声も聞かれる。しかしながら、学術情報提供サービスは、どのような時代でも普遍的に求められる機能であり、大学が大学であるための知的ライフラインとして欠かせない。大学が独立法人化へ向けて動き出した今こそ、図書館の再生を図る好機である。

(むらせ すみお)

## 信州大学で利用できる電子ジャーナルと学術文献検索システム

この数年の間に、雑誌論文や学術文献情報の利用の形態が急速に変化しています。従来は印刷体として紙上に文字・図等で固定されていた学術関係の論文等は、電子化されて研究室・図書館等のパソコン上から見るできるようになっています。2003年度からは信州大学においても、他大学にも導入済みのいくつかの出版社系パッケージ電子ジャーナルシステムが導入される予定です。

それでは、現時点で信州大学内で見ることのできる電子ジャーナルにはどのようなものがあるのでしょうか。附属図書館のホームページに掲載された情報から、2002年9月現在で、信州大学で利用できる電子ジャーナルや情報検索システムのうち、雑誌論文に関係する大型のシステムを以下のとおり表にまとめてみました。この表にまとめたもの以外にもタイトルごとの有料電子ジャーナル、会員が利用できる学会ジャーナル、無料ジャーナル等がありますが、これらを詳細に区分し掲載することはあまりに煩雑となるため、ここには掲載していません。

雑誌の電子化と利用のシステムは急速に変化しているため、利用できる電子ジャーナル・情報検索システムの最先端の状況を詳細にまとめることは困難です。経費、サイト、アクセス範囲年等の契約上の諸問題、新しい電子ジャーナルの刊行開始、また、電子化の結果、電子ジャーナルと情報検索システムを融合したシステムの登場、商業出版社に拠らない電子ジャーナルの刊行、電子ジャーナルシステムや出版社のM&A等、かつては考えられなかったさまざまな問題が噴出しています。

今後は電子ジャーナルシステム間で異なる検索・利用システムに対する統合された検索システムの構築、購読雑誌で電子ジャーナル未導入のタイトルの契約、キャンパス間での利用格差の解消等、電子化情報の利用について積極的な対応を進める必要があります。

提供キャンパス	形態	名称	提供機関	概要
全キャンパス	電子ジャーナル	ScienceDirect (Life Science 6分野)	Elsevier Science	Elsevier Science 社、及びグループ会社である Pergamon, North-Holland, Excerpta Medica が出版している雑誌のうち、ライフサイエンス系6分野 (Agricultural Biological Science / Biochemistry, Genetics & Molecular Biology / Immunology and Microbiology / Medicine / Neuroscience / Pharmacology, Toxicology & Pharmaceuticals) の約390誌。1988年以降の掲載論文を表示、印刷できるほか、論文検索が可能。
全キャンパス	電子ジャーナル	ScienceDirect (Web Edition)	Elsevier Science	購読している Elsevier Science 社の雑誌で、最近号(過去12ヶ月)の目次・抄録および全文の閲覧・印刷が可能。LifeScience 6分野に含まれる雑誌は上記の内容で利用可能。
全キャンパス	電子ジャーナル	LINK	Springer	Springer 及び関連出版社から刊行されている約500誌のうち、電子化されている396誌が利用可能。
全キャンパス	電子ジャーナル	ProQuest	ProQuest Information and Learning	ProQuest Medical Library, ProQuest Health, Pharmaceutical News Index の3データベースを含む臨床系商業誌を中心とした約400誌(内フルテキスト約300誌)の全文データベース。
全キャンパス	電子ジャーナル	PubMed Central	National Institute of Health (NIH)	NIH が中心となってはじめた全文提供サービスで、90誌以上の全文閲覧が可能。ただし雑誌掲載の全論文が対象とはなっていない。
全キャンパス	電子ジャーナル	OUP online Journals	Oxford Univ. Press (OUP)	国立情報学研究所が試験提供している Oxford University Press (OUP) 刊行の電子ジャーナル。ほぼ全タイトルの全文利用が可能。自然科学分野の他、経済学、法学などの人文科学分野の雑誌も含まれる。(平成15年3月まで試験提供)
全キャンパス	電子ジャーナル	J-Stage	科学技術振興事業団	科学技術振興事業団 (JST) が構築した「科学技術情報発信・流通総合システム」を使用して刊行された国内発行電子ジャーナルの全文の閲覧が可能。
全キャンパス	電子ジャーナル	HighWire	HughWire Press	スタンフォード大学図書館を基盤としたアグリゲータ系電子ジャーナルシステム。Science, Technology, Medicine の分野を中心として代表的な学協会誌、専門誌を収録。信州大学は契約していないが、一部Free雑誌の利用が可能。
全キャンパス	電子ジャーナル	Nature	Nature Pub. Group	1869年イギリスで刊行された自然科学系全般を扱う週刊誌。現在同時アクセス1名。パスワード方式。
全キャンパス	情報検索	SweetScan	Swets & Zeitlinger	オランダのスイスエッツ社が提供する世界の主要な学術雑誌約14,000誌の目次情報。自然科学系の雑誌のほか、人文科学・社会科学系の雑誌も含まれている。このデータベースでは、検索機能とSDI機能を利用することができる。なお、SweetScan サービスは附属図書館ホームページの学内向けサービスのうちのデータベースからリンクされている。
全キャンパス	情報検索	Ingenta	Ingenta	約26,000タイトル以上の学術出版物、4,500以上の電子ジャーナルを収録した、ほぼ全分野をカバーする文献情報データベース。目次情報をWeb上に公開していた Uncover と、電子ジャーナルサイトであった ingenta が合併し、さらに Catchword を合併して包括的な雑誌文献情報を提供するシステムとなった。目次情報の検索、抄録の閲覧が可能。
全キャンパス	情報検索	PubMed	National Library of Medicine	米国立医学図書館が一般公開している文献検索システム。世界最大の医学文献データベースである MEDLINE の全文に加え、MEDLINE 掲載直前の文献、医学出版から電子的に供給される文献情報をカバーしており、ある文献に引用されている文献の自動検索/表示等が可能。
旭キャンパス	電子ジャーナル	Science	American Association for the Advancement of Science	1883年アメリカで刊行された自然科学系全般を扱う週刊誌。
旭キャンパス	情報検索	医中誌 Web 版	医学中央雑誌刊行会	医学中央雑誌刊行会が提供する文献情報データベース。大学・学協会・研究所・病院などから発行されている雑誌、営業誌、学会等の会議録、講演集、公共資料など、約2,400誌から収録。分野は国内で発行されている医学・歯学・薬学およびその関連領域で、生理学・生化学などの基礎分野から臨床医学の各分野、獣医学・看護学・社会医学など広範囲に及ぶ。
旭キャンパス	情報検索	Evidence-Based Medicine Reviews (EBMR)	Ovid Technologies	医療従事者向けの「科学的根拠に基づく医療」のデータベース。Evidence-Based Medicine (科学的根拠に基づく医療)は、科学的根拠のない治療方法を排除し、根拠のある医療を推進する事を目的として導入され、現在世界的に普及、実践され始めている。
旭キャンパス 常田キャンパス	電子ジャーナル	Physical Review Online Archive (PROLA)	American Physical Society	米国物理学会が刊行する物理学関係の電子ジャーナル。2001年から印刷体のみの刊行を停止し、電子体と印刷体をセットとする契約に移行し、PROLA では、Physical Review の初号(1893年)から電子体で利用できるようになった。 信州大学での1999年以降の利用可能範囲:旭キャンパス: Sect. B & D、常田キャンパス: All Section

注 1) このほかにも利用可能な電子ジャーナルがあります。詳細は附属図書館ホームページを参照してください。  
 2) 記述内容は9月上旬現在のものです。利用可能年等、最新情報はそれぞれのサイトを参照してください。  
 3) 形態区分は便宜的に付したもので、今後統合等の変化が予想されます。

# 電子ジャーナル・データベースの無料トライアルについて

信州大学では、有料の電子ジャーナル・データベースについての無料トライアルを随時実施しています。2002年度に実施したトライアルは以下の通りです。

## 1. ProQuest

Academic Research Library (人文・社会・自然科学各分野の約2,500 (全文約1,500) タイトルを収録した全文データベース) ほか5つのデータベース。

期 間 2002年7月1日～2002年10月末

\* 信州大学では、ProQuest のデータベースの内、Health & Medical Complete を既に導入していません。

## 2. EBSCOhost web

Academic Search Premier (人文・社会・自然科学各分野の約4,400 (全文約3,400) タイトルを収録した全文データベース)、Business Source Premier (経済・ビジネス分野の約3,300 (全文約2,800) を収録した全文データベース) ほか13のデータベース。

期 間 2002年7月1日～2002年9月30日

## 3. Kluwer Online

Kluwer社が刊行する電子ジャーナル全タイトル (約720タイトル)。

期 間 2002年5月7日～当面の間

## 4. CSA Internet Database Service

CSA (Cambridge Scientific Abstracts) 社が提供する10分野の2次資料データベース。

期 間 2002年5月1日～2002年9月末

## 5. EIUウェブサービス

週刊誌「The Economist」の調査部門 EIU (The Economist Intelligence Unit) 社が発行する世界各国の政治経済に関する報告書のデータベース等。

期 間 2002年2月13日～2002年7月31日

## 6. OUP Online Journal

OUP (Oxford University Press) が刊行する電子ジャーナル全タイトル (約170タイトル)。NII (国立情報学研究所) による試験提供。

期 間 ～2003年3月末 (2001年度より継続)

上記の内、1～4については、国立大学図書館協議会電子ジャーナルタスクフォースのトライアルプログラムに参加したものです。EBSCO host については、2003年度からの導入に向けて準備をすすめています。その他のものについては現在検討中です。電子ジャーナル・データベースの中には、正式な利用期間の開始前に、トライアルという形で利用可能になるものもあります。このような無料トライアルの状況については、附属図書館および各分館ホームページにて随時お知らせしていますので、ぜひご利用ください。

## ◆◆ 利用者の声から ◆◆

### この雑誌は工学部分館のどこにありますか（工学部分館）

#### ★ 回 答 ★

#### 1. 新しい号について

① 購入雑誌

今年と昨年分は、新着雑誌室に購入学科毎に配架してあります。昨年分については、7～8月頃製本に出します。

② 寄贈雑誌

発行機関毎に、2階雑誌閲覧室の窓際（南）・壁際（西）の棚に並んでいます。

\*最新号以前の号

カウンターでよく聞かれるのですが、最新号以前の号は、最新号の置いてある前面の棚が蓋になっていますのでその棚板を上を開けた中にあります。

#### 2. 製本してある雑誌について

工学部分館の製本雑誌は、雑誌名順ではなく図書のように請求記号順に並んでいます。そのため、請求記号がわからないと雑誌がどこにあるか探せません。

請求記号は下記のような方法で調べることができます。

① OPAC で調べる

一番確実な方法です。

ホームページの見られるどのパソコンからも利用できます。

雑誌名があいまいな場合でも検索できます。

新しい号が入ったかどうか、また所蔵している巻号・年も確認できます。

② 「雑誌請求記号一覧」(工学部分館作成リスト)で調べる

カウンターと2階に用意してあります。

雑誌名と請求記号の対応のみで、所蔵巻号・年については掲載していません。

探している雑誌名と記載している雑誌名が異なって見つからない可能性もあり、あくまで補助用ですので、そのような時は OPAC をご利用下さい。

#### 製本雑誌の大まかな配置

( 寄 贈 雑 誌 )

( 寄 贈 雑 誌 )	二 次 資 料	up ↑	二 次 資 料
	P 57		P 00～P 30, P 70～P 90番台
	P 40 番 台	階 段	P 40 ～ P 60 番 台

( 新 着 雑 誌 室 )

# お知らせ

## 図書館における利用者ガイダンス

- ・こんな目的でやっています
  - ・今年度はこれだけやっています
    - ・こんなこともやりたいと思っています
      - ・ご要望をどうぞ！ 一緒に作りましょう！

図書館は、図書・雑誌をはじめとする大量の知的資源を有する、大学内で最大の学習・研究支援施設です。この図書館を皆様により有効に使っていただくために、附属図書館・各分館では利用者ガイダンスを行っています。平成14年度、これまでに実施したガイダンスは以下のとおりです。

### 〈利用者ガイダンス実施状況〉

館名	主催者・依頼元	対象	回数	参加者数
中央館	図書館主催	新入生	6回	133人
〃	人文学部新入生ゼミナール	〃	5回	200人
〃	経済学部新入生ゼミナール	〃	11回	275人
〃	理学部講座	〃	1回	30人
〃	人文学部講座	専門課程(2年生以上)	1回	12人
〃	〃	共通教育1年生	1回	10人
教育学部分館	教育学部各講座	研究室所属学生	数回	各2～7人
農学部分館	図書館主催	新2年生	1回	7人
繊維学部分館	図書館主催	新2年生・編入生	数回	
〃	繊維学部各講座	4年生	2回	各7～9人
〃	機能機械学科オムニバス授業	3年生	1回	40人

中央館は新入生中心で、図書館主催のガイダンスの他に、新入生ゼミナールの一環としても行われています。分館では各講座からの依頼に応じて行うことも多くなっています。

### 〈ガイダンスの内容〉

- 新入生向け
- ・スライド(Power Point)による図書館の利用説明
  - ・実際に館内を案内して説明する図書館ツアー
  - ・OPAC(信州大学の所蔵図書・雑誌の検索システム)の実習
  - ・Web-cat(全国の大学図書館などの所蔵図書・雑誌を一気に検索するシステム)の実習
- その他
- ・文献検索の方法と文献の入手について
  - ・インターネットで検索する時のサーチエンジンの使い方
  - ・電子ジャーナルの利用について

自分がほしい資料(本や雑誌の論文)にどうやってたどりつくか。図書館でできることの知識を得て、

「たどりつく」技術を身に付けてもらうのがガイダンスの目標です。図書館の中の、どこにどんな本が置いてあるか、からはじまり、学内中・日本中・世界中の情報に手を伸ばす方法を様々に紹介します。「これがダメならあっちの手段で」というふうに、道は一つではありません。

#### 〈今後の予定〉

9月以降、医学部では新たに導入される検索システム「EBMR」の講習会や、大学院生・研修医を中心とした若手研究者向けの「文献検索から入手まで」の講習会を予定しています。最も生き生きと情報の山にアタックする時期であり、かつ、お金のない時期の方々の応援になればと思っています。

また、農学部では各研究室に所属する学生を対象に、データベースや電子ジャーナルの利用についてのガイダンスを計画しています。

これ以外にも各館で図書館員は、「より効果的な図書館利用」のためにガイダンスや日常の説明に尽力しています。どうぞお気軽に質問してください。

#### 〈これからの課題〉

ガイダンスを効果のあるものにするためには、より多くの方の参加が大切です。図書館としては、参加呼びかけの方法、利用者が真に必要としている内容をつかむ努力、適切な時期の設定をこれからも考えていきます。皆様のご意見・ご要望をお寄せください。

ご参考までに、参加された利用者の方々のご意見と、担当している図書館員の本音（ちょっと愚痴かも）を紹介します。

#### 参加者の声から

- 「(新入生なので) いろいろ忙しいから、もっと長期間にわたって開いてもらえれば参加しやすい。」
- 「高校の図書館と全然違う。いろいろ使ってみたい。」
- 「パソコンの実習があってよかった。」
- 「図書館をもっと大きく、近代的にしてほしい。」

#### 図書館員の内緒話

- 「本のさがし方については、レポートの締め切りや試験が近くなる7月にもう一度やったら、必要に迫られて熱心に聞いてくれないかしら。」
- 「せっかく電子ジャーナルがあるのだから、もっと使ってもらえるように説明会をやりたい。」
- 「ガイダンスを受けた人は図書館の利用マナーもいいから、多くの人に呼びかけたい。」
- 「参加者が少ない……。どうPRしたらいいの？」

#### 〈利用者の皆様へ〉

講座、授業、グループ別ガイダンスを随時受け付けています。

中央館資料サービス係（内線：2496）、各分館にお申し込みください。教官からにかぎらず、学生だけのグループでのお申し込みでもご相談に応じます。

内容・検索対象など、専門や授業内容に合わせて、より効果的なガイダンスを行いたいと思っています。細かいご要望を出していただき、協力しあってよいガイダンスにしたいと思います。

# 本学関係者著作寄贈図書一覧

(平成14年3月～平成14年8月)

ご寄贈くださいました皆様にお礼申し上げます(受入館別、敬称略)

館名	書名	発行者	出版年	寄贈者	所属
中央館	恐慌論研究	東京図書出版会	2002	白鳥重幸	元経済学部
	高山に咲く花	山と溪谷社	2002	清水建美	名誉教授
	図説植物用語事典	八坂書房	2002	清水建美	名誉教授
	遥かなり、 ガネッシュヒマールⅡ峰	信州大学山岳会	2002	信州大学山岳会	
	高知市民図書館蔵 「徳弘家資料」	信州大学教育システム研究開発センター	2002	坂本保富	教育システム研究開発センター
	自治 (岩波講座自治体の構想 5)	岩波書店	2002	沼尾史久	経済学部
	メディアの中の読者	ひつじ書房	2002	和田敦彦	人文学部
	老人達のおきみやげ	松商学園短期大学	2001	玉井袈裟男	名誉教授
	歌集 百代の過客 ドイツ語短歌集(第5集)	みぎわ短歌会	2000	手嶋竹司	名誉教授
	歌集 老耄の四季 ドイツ語短歌集(第6集)	みぎわ短歌会	2002	手嶋竹司	名誉教授
	ラテンアメリカ研究への招待	新評論	1998	鈴木慎一郎	人文学部
	伝わるしくみと異文化間コミュニケーション	南雲堂	2000	井上逸兵衛	人文学部
	地震と防災	信濃毎日新聞社	2002	塚原弘昭	理学部
教育学部分館	緑の山河望郷：自然と人とのふれあい	ほおずき書籍	2002	和田清	教育学部
	少子化をのりこえたデンマーク	朝日新聞社	2001	角尾篤子	教育学部
農学部分館	Let's enjoy 誰でもできるサンデー森づくり	森林計画学会出版局	1999	加藤正人	農学部
	防災いろはカルタ	堀内照夫	2002	堀内照夫	元農学部
	遥かなり、 ガネッシュヒマールⅡ峰	信州大学山岳会	2002	宮崎敏孝	農学部
繊維学部分館	生でおいしい水道水	築地書館	2002	中本信忠	繊維学部

**分館  
だより****教育学部分館特別コレクション「藩文庫」  
時代の変遷の中で：「信州高遠藩進徳館図書」の《貸与》**

信州大学附属図書館の特別コレクション「藩文庫」として、教育学部分館は旧信濃国のいくつかの藩(学校)で収集された図書<藩校図書>を所蔵している。今年4月30日、高遠町および教育学部の両者が念願していた信州高遠藩進徳館図書が、教育学部から高遠町図書館へ「貸与」された。

教育学部と高遠藩進徳館図書との関係は新聞等にたびたび紹介されているとおり、1世紀以上に渡る長い歴史がある。1871年の廃藩置県を発端とする高遠藩進徳館図書の処遇は、同年、高遠県の筑摩県への統合、1876年の長野県と筑摩県が統合され長野県が設置される経緯の中、筑摩県から長野県へ、長野師範学校から教育学部へと引き継がれて現在にいたっている。

教育学部に引き継がれて後、1993年には当時の国語教育関係教員と学生が中心となり、高遠藩進徳館図書を初めとして学部にも所蔵されている藩校図書の整備が行なわれた。通称「れんが庫」と呼ばれる長野師範学校時代からの書庫に保管されていた藩校図書を点検整備し、書誌資料としてまとめるという、細かな手数を必要としたほぼ初めての本格的な作業であった。この時対象とされた藩校図書の多くは「れんが庫」から図書館へ移され、以後図書館に保管されることになる。

図書館へ移された藩校図書は、検証のため書誌項目に従って一点一点台帳に記載された。その結果まとめられたのが、『旧長野師範学校所蔵図書』及び「信州諸藩の藩校図書」目録』である。この目録が作成されたことで教育学部における藩校図書の所蔵状況が明確になった。

高遠藩進徳館図書については、再三、高遠町関係者から教育学部へ返還の要請が提出されていた。最も新しい要請書は平成14年2月19日付とある。

この申請書の実現に向けて教育学部、高遠町双方が具体的な形で動き出したのは最近である。

2000年に教育学情報係長(図書館)に赴任した峯村武氏は、以前から教育学部図書館へ赴任の度にこの藩校図書との係りを持ち、先の目録作成時の時も様々な形で深く係っていた。今回、高遠藩進徳館図書の貸与についても、氏の本藩校図書に対する愛着と熱意が深く影響していたと見られる。「研究的観点から教育学部に所蔵され研究者に供される、という一理はあるにしても、やはり本来あるべき高遠藩へ返還し、当時からの流れを受け継ぎ高遠町に保管され、地元『高遠町』の人たちの利用に供することが、高遠藩進徳館図書の本来の姿」とする命題の基、峯村氏の「貸与」のための作業は行なわれた。先の目録作業作成の過程で図書館に保管された藩校図書のうち、台帳と目録に記載されている高遠藩進徳館図書、それと現物との整合性を見極めながら「貸与」される図書の点検作業が続けられた。

そして234点、4,473冊が「貸与」される高遠藩進徳館図書として最終的に確認された。

この作業中も「貸与」のための打合せ等が教育学部と高遠町図書館等の間で行なわれ、図書の引渡しは2002年4月30日と決まり、当日運び出し作業が行なわれた。

作業は完了し、藤沢謙一郎教育学部長、峯村氏等、教育学部関係者の見送る中、図書はワゴン車に乗せられ高遠町へと帰って行った。藩校図書を見送る時、馬の背とワゴン車という違いはあるものの、当時の高遠藩の人たちと、今回の教育学部関係者の間には、図書に対する相通じる心情が去来していたかも知れない。

5月25日(土曜日)には、8回目となる高遠町「進徳館の日」が開催された。式典には教育学部関係から藤沢謙一郎教育学部長と峯村武氏が招待された。図書「貸与」の記念行事として、藤沢学部長と伊東義人高遠町長との間で覚書を取り交わすセレモニーが行なわれ、翌日の新聞にも報道された。

こうして1世紀以上に渡る高遠藩進徳館図書の「貸与」に対して今回1つの目途が図られたのである。

◇今回、一連の過程における教育学部関係者の方々、および高遠町関係者の方々等のご協力とご理解に対してお礼申し上げます。

また、前教育学情報係長(図書館)の峯村武氏は2002年3月31日付で定年退職されました。

## 業務日誌 (平成14年3月18日～9月20日)

- 3月18日 全学図書関係係長会議(平成13年度第3回)
- 4月16日 平成14年度第1回電子ジャーナル・タスクフォース(東大/情報サービス課長)
- 4月25～26日 第53回北信越地区国立大学図書館協議会(福井市/館長、事務部長、情報サービス課長)
- 5月20日 各地分館管理的業務一元化検討会議(附属図書館会議室)
- 5月21日 平成14年度国立大学附属図書館事務部課長会議  
(学術総合センター/事務部長、情報管理課長)
- 5月22日 館長・分館長懇談会(附属図書館館長室)
- 5月22日 第1回 NACSIS-IR 利用説明会(国立情報学研究所/情報サービス課:岩波)
- 5月23日 平成14年度第2回電子ジャーナル・タスクフォース(東大/情報サービス課長)
- 5月23～25日 第73回日本医学図書館協会総会(松山/医学情報係長)
- 5月27日 学術情報・図書館委員会(平成14年度第1回 SUNS使用)
- 6月12～14日 平成14年度国立学校等幹部職員研修(課長級)(オリセン/情報サービス課長)
- 6月18日 人文・経済・理学部委員懇談会(附属図書館会議室)
- 6月26～27日 第49回国立大学図書館協議会総会(鳥取市/館長、事務部長、情報管理課長)
- 7月4日 平成14年度第3回電子ジャーナル・タスクフォース(東大/情報サービス課長)
- 7月8～11日 平成14年度第1回情報ネットワーク担当職員研修「ネットワーク管理」  
(東京都/雑誌情報係:波止)
- 7月16日 館長・分館長懇談会(附属図書館館長室)
- 7月17～19日 平成14年度第2回目録システム講習会「雑誌コース」  
(国立情報学研究所/教育学情報係:武田)
- 7月22～25日 平成14年度大学図書館職員長期研修講義の SCS による受講  
(学内各館室職員・県内大学短大図書館職員)
- 7月23日 全学図書関係係長会議(平成14年度第1回)
- 7月25日 平成14年度第1回館報「花信」編集委員会(附属図書館小会議室)
- 7月29日 学術情報・図書館委員会(平成14年度第2回 SUNS使用)
- 7月31日 平成14年度第4回電子ジャーナル・タスクフォース(東大/情報サービス課長)
- 8月1日 村瀬図書館長就任
- 8月7～9日 第9回医学図書館員基礎研修会(鶴見大学/医学情報係:伊藤)
- 8月22日 情報セキュリティセミナー(文部科学省/情報サービス課長)
- 8月26日 電子ジャーナル・タスクフォース各社打合せ会(東工大/情報サービス課長)
- 8月26～27日 電子ジャーナル・ユーザー教育担当者研修会(東工大/資料サービス係:岩波)
- 9月2日 附属図書館防災訓練
- 9月5日 第14回北信越地区医学図書館員研修会  
(医学部会議室/医学情報係長、医学情報係:上原、伊藤、林)
- 9月13日 館長・分館長懇談会(附属図書館館長室)
- 9月19～20日 特別研修・合宿研修及び全学図書関係係長会議(平成14年度第2回)

## 人 事 異 動

日 付	区 分	新 官 職 名 等	氏 名	旧 官 職 名 等
14・3・30	辞 職		根 市 祐 美 子	農学情報係事務補佐員
			天 満 哲 司	繊維学情報係事務補佐員(時間外担当)
			浜 崎 暢 央	繊維学情報係事務補佐員(時間外担当)
			中 村 毅 彦	繊維学情報係事務補佐員(時間外担当)
14・3・31	辞 職		峰 村 武	教育学情報係長
			逢 澤 潤 一	医学情報係事務補佐員(時間外担当)
			林 昭 孝	医療短期大学部事務補佐員(時間外担当)
			高 杉 優 貴	医療短期大学部事務補佐員(時間外担当)
14・4・1	転 入	教育学情報係事務補佐員	宮 下 綾	繊維学部用度係事務補佐員
		医学情報係長	折 井 匡	山梨医科大学附属図書館情報サービス係長
		医学情報係	林 康 代	学生部留学生課留学生係
		農学情報係	北 村 昭 信	農学部庶務係
	館内異動	資料サービス係長	塚 原 俊 敬	農学情報係長
		資料サービス係	岩 波 峰 子	医学情報係
		総務係主任	大 内 佳 子	図書情報係主任
		図書情報係	犬 浦 恭 子	資料サービス係
		教育学情報係長	杉 本 詔 守	繊維学情報係長
		教育学情報係	武 田 佳 代	繊維学情報係
		医学情報係	上 原 直 行	教育学情報係
		農学情報係長	淵 井 正 文	資料サービス係長
		繊維学情報係長	内 海 広	医学情報係長
		繊維学情報係	川 西 玲 子	医学情報係
	転 出	農学部庶務係主任	矢 島 小 百 合	農学情報係主任
		繊維学部学務係主任	中 村 秀 明	総務係主任
	採 用	医学情報係事務補佐員(時間外担当)	張 秀 果	
		繊維学情報係事務補佐員(時間外担当)	貫 井 啓 介	
		繊維学情報係事務補佐員(時間外担当)	福 田 秀 晴	
		繊維学情報係事務補佐員(時間外担当)	須 田 直 久	
		医療短期大学部事務補佐員(時間外担当)	増 田 暁 浩	
		医療短期大学部事務補佐員(時間外担当)	西 口 和 範	
14・4・16	採 用	農学情報係事務補佐員	飯 島 深 雪	
14・6・26	育児休業	平成15年3月31日まで	小 島 浩 子	教育学情報係
14・7・31	任期満了		野 村 俊 明	附属図書館長
	辞 職		樋 口 礼 子	工学情報係事務補佐員
14・8・1	就 任	附属図書館長	村 瀬 澄 夫	
	採 用	工学情報係事務補佐員	庄 村 の ぞ み	

# 信州大学学術情報・図書館委員会名簿

平成14年8月1日現在

所属等	氏名	備考
副学長	村山研一	委員長
附属図書館長	村瀬澄夫	附属図書館運営専門部会長 学術情報専門部会長(平成14年度末までの暫定)
教育学部分館長	益地憲一	附属図書館運営専門部会
医学部分館長	福島弘文	附属図書館運営専門部会
工学部分館長	土屋良明	附属図書館運営専門部会
農学部分館長	廣田満	附属図書館運営専門部会
繊維学部分館長	三浦幹彦	附属図書館運営専門部会
人文学部助教授	吉田正明	附属図書館運営専門部会
人文学部助教授	轟亮	学術情報専門部会
教育学部教授	中西公一郎	学術情報専門部会
経済学部教授	都築勉	学術情報専門部会
経済学部教授	村上範明	附属図書館運営専門部会
理学部教授	西田憲司	附属図書館運営専門部会
理学部教授	手塚洋	学術情報専門部会
医学部教授	佐々木克典	学術情報専門部会
工学部助教授	不破泰	学術情報専門部会
農学部助教授	千菊夫	学術情報専門部会
繊維学部助教授	太田和親	学術情報専門部会
総合情報処理センター長	海尻賢二	学術情報専門部会
医療技術短期大学部教授	本郷実	学術情報専門部会
附属図書館事務部長	湯本一義	附属図書館運営専門部会

注) 委員会の下に附属図書館運営専門部会及び学術情報専門部会が設置されており、委員以外から附属図書館運営専門部会には附属図書館情報管理課長(米沢章雄)、学術情報専門部会には附属図書館情報サービス課長(長友良維)が部会員。

## 花信 第12号 2002年9月30日 [年2回発行]

■ 編集 花信編集委員会(長友良維・金井忠彦・波止教史・岩波峰子・鈴木史子)

■ 発行 信州大学附属図書館

〒390-8621 松本市旭3-1-1

TEL 0263 (37) 2174 ・ FAX 0263 (33) 5833

URL : <http://www-lib.shinshu-u.ac.jp/>

E-mail : [jjja0141@gipac.shinshu-u.ac.jp](mailto:jjja0141@gipac.shinshu-u.ac.jp)